

妊産婦のごはん摂取の現状 -29年度アンケート調査結果-

米穀機構では、妊産婦に対して、妊娠期の栄養と正しい食生活及び離乳食のあり方について、ごはんを主食とした日本型食生活をベースに解説した小冊子「おいしい！かんたん！マタニティ食事レッスン1日のごはんレシピ付<B6版>(90万部)」を公益財団法人母子衛生研究会とともに作成し、全国の自治体を通じて母子健康手帳等といっしょに配布しています。

この小冊子に添付したアンケート(妊産婦のごはんの摂取状況)結果について、ご紹介します。

* 平成29年4月～30年3月までの回答分を集計

回答者数:927人(28年度1,149人、27年度1,227人)

回答者の属性

年代:10歳代6人(0.6%)、20歳代263人(28.4%)、30歳代582人(62.8%)、40歳代以上76人(8.2%)

職業:主婦377人(40.7%)、会社員・公務員等280人(30.2%)、パート・アルバイト86人(9.3%)、その他142人(15.3%)、未記入42人(4.5%)

地域性:全国(全ての県から回答)

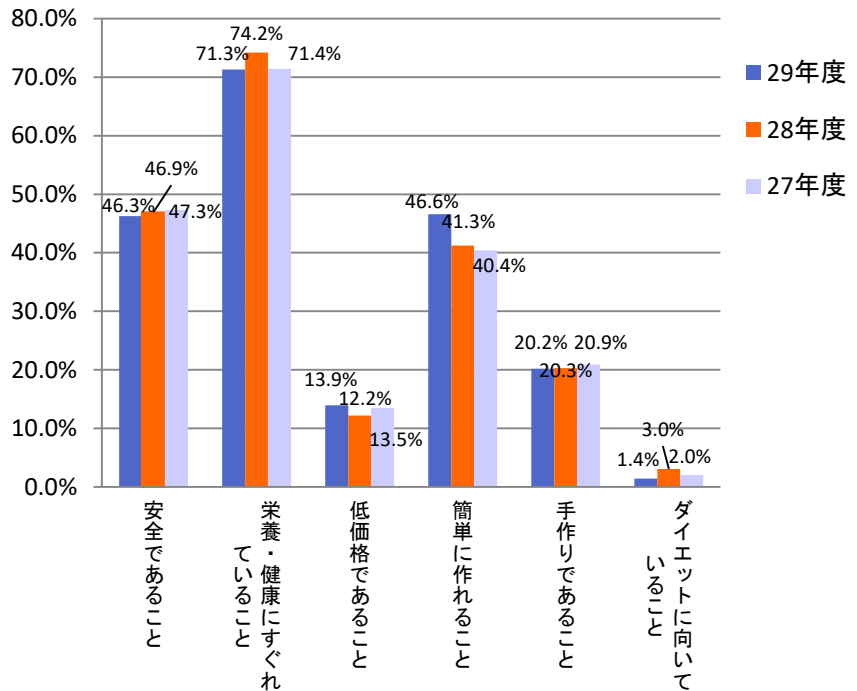
[結果のポイント]

- 1 妊娠期、周産期を通じ、食に関して気をつけていることは、「栄養・健康にすぐれていること」が最も高い
(28年、27年度も同様)
- 2 ごはん食の一番の魅力は、「味が淡白なので、どんなおかずにも合い、栄養のバランスがとりやすいこと」
(28年、27年度も同様)
- 3 ごはん食をほぼ毎食(週5回以上)食べている人は、夕食で約72%(28年度約74%、27年度約75%)。昼食で約50%(28年度約48%、27年度約48%)。朝食でも約37%(28年度約36%、27年度約37%)。
- 4 炊飯は、1日1回が約6割(28年、27年度も同様)。

1 食に関して気をつけていること

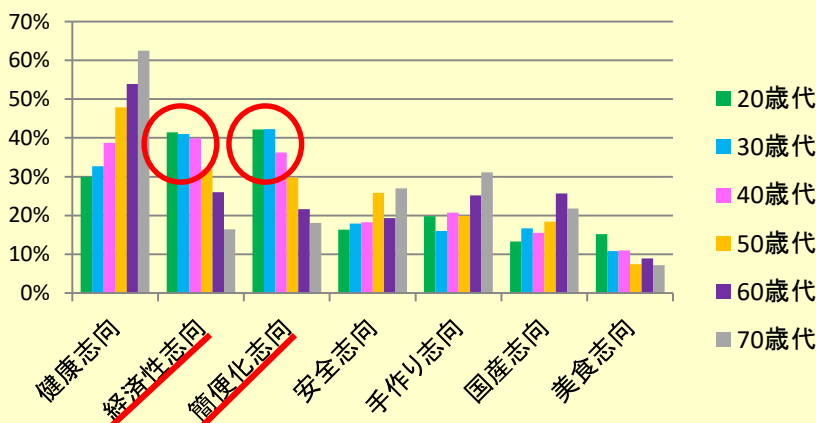
食に関して気をつけていることは、1位「栄養・健康にすぐれていること」(71.3%)、2位「簡単に作れること」(46.6%)、3位「安全であること」(46.3%)です。

毎年、栄養、健康面、安全性への関心が高いことが妊産婦の特徴でしたが、今年度は、「簡単に作れること」が5.3ポイント増え、簡便性も重視される傾向がみられ、特徴としてあらわれてきました。



年代別 現在の食の志向

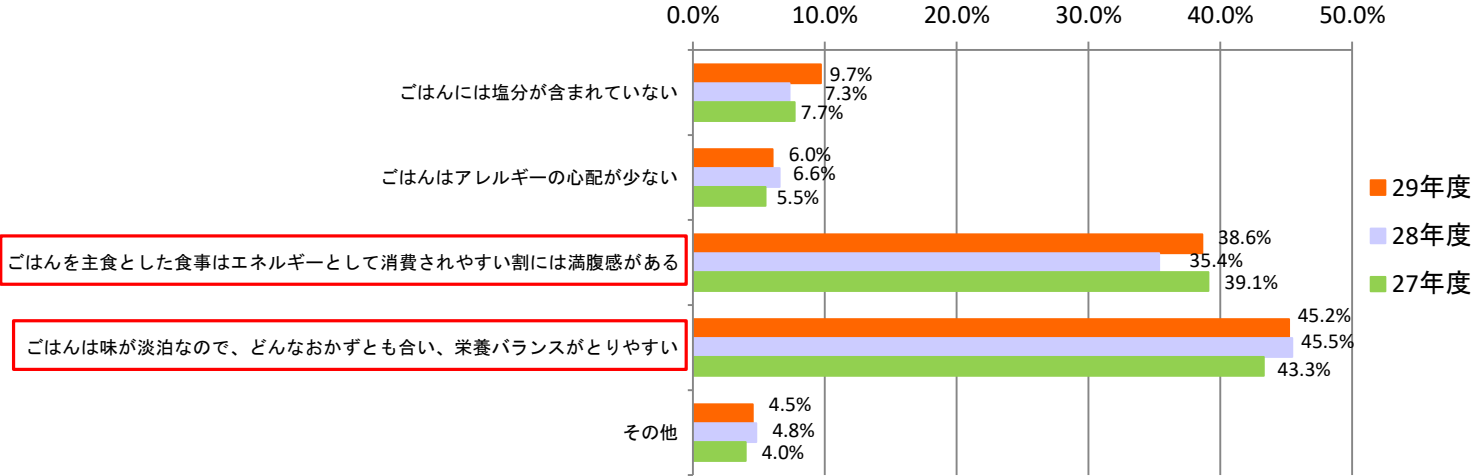
日本政策金融公庫・平成29年度上半期消費者動向調査より



※今回の調査結果(9割が20、30歳代)と日本政策金融公庫の消費者動向調査の“食の志向”における、20歳～30歳代を比較すると、「経済性」、「簡便化」が上位を占めるのに対し、妊産婦では、「栄養・健康・安全」への関心が圧倒的に高くなっています。

2 ごはん食の一番の魅力は

ごはん・ごはんを主食とした食事の良さの中で、1位は、「ごはんは味が淡泊なので、どんなおかずとも合い、栄養バランスがとりやすい」(45.2%)。2位は、「ごはんを主食とした食事は、エネルギーとして消費されやすい割には満腹感がある」(38.6%)で、これは、昨年より3.2ポイント増加している。母体の健康維持の基本は、「ごはん」であるとの認識は依然として高いことが伺えます。また、「ごはんには塩分が含まれていない」ことも、昨年より2.4ポイント増加し、この時期におけるメリットとして、一定の認識を得ているものと思われます。

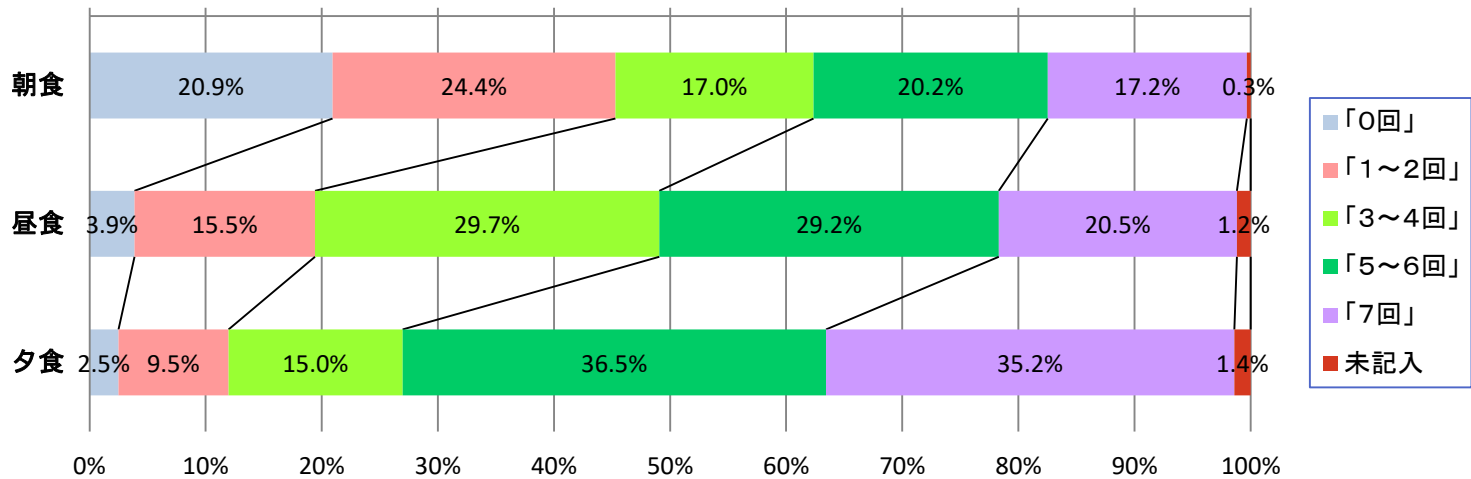


3 ごはん食の回数(1週間のうち、朝・昼・夕食別に、ごはん食を食べた回数)

「毎食(週7回)、ごはんを食べる人」の割合は、朝食では17.2%(28年度16.5%、27年度17.0% 以下同じ)、昼食は20.5%(18.8%、19.2%)、夕食35.2%(39.4%、40.3%)でした。この3年間をみると、毎年同様な傾向で、夕食は朝食のほぼ倍の割合になっている。週5回以上は、朝食で約40%、昼食で約半数の人が、夕食は、約7割強の人がほぼ毎日ごはんを食べています。

今年度の特徴として、朝食(1.6ポイント)、昼食(1.4ポイント)僅かながらごはんを食べる回数が増えています。

<ごはん食の回数>



<1日の炊飯回数>

4 1日の炊飯回数

「1日1回、炊飯する人」が55.3%(28年度55.2%、27年度56.1% 以下同じ)で最も多く、次いで、「何日かに1回」が31.4%(30.2%、27.9%)、「1日2回以上」が11.7%(13.2%、14.2%)の順である。

毎日炊くことは減少傾向にあり、「何日かに1回」が5年前(22.1%)に比べると9.3ポイント増加していることから、まとめ炊きをし、冷凍保存しておく傾向にあるのかと思われます。

